

教育研究業績書

2015年10月03日

所属：日本語日本文学科

資格：教授

氏名：辰巳 都志

研究分野	研究内容のキーワード
学位	最終学歴
文学修士	関西学院大学大学院 文学研究科 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 文章表現法	2010年	文章が書ける人材を作るため、前年度から開講したカリキュラムの中で、大学2年生を対象に、講義にあと、毎週文章を書かせて添削指導している。
2. 文芸創作	2010年	日文学科の3年生を対象に前期は小説、後期は脚本の書き方を教えている。脚本は学生全員で2011年度の金沢戯曲大賞に応募することを目的に、日々制作に取り組んでいる。
2 作成した教科書、教材		
1. 谷崎潤一郎訳「源氏物語」読み解きの道しるべ	2010年04月	谷崎潤一郎訳「源氏物語」の各巻の概要を載せ、読解に役に立つ地図や図などを編集したもの。谷崎の作品講読で、必要ところを一部コピーして無料配布することもある。
2. たつみ都志の読んだ気にさせる小説構成表	2008年03月	近代、現代小説のあらすじが一目で分かる小説構成表。毎年、追加している。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 高等学校一種教員免許(国語)	1974年03月	
2. 中学校1種教員免許(国語)	1972年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 図録「谷崎潤一郎 人と文学」	共	2013年11月28日	芦屋市谷崎潤一郎記念館	谷崎潤一郎の生きざまと作品との関係を写真と文章で綴ったもの。芦屋市谷崎潤一郎記念館で頒布。監修。(共著者：永井敦子)
2. 谷崎潤一郎訳「源氏物語」読み解きの道しるべ	単	2010年04月	株式会社LGC	谷崎潤一郎訳の源氏物語を各巻53帖ごとに概要を作成、そのほか源氏物語を読み解く上で役に立つ図や人物系図を作成編集したもの。
3. DVD「大義の聞き際」鎖瀾閣復元運動の軌跡	単	2010年03月	NPO法人潤	1995年1月17日阪神大震災で、谷崎潤一郎がデザインして建てた家(神戸市東灘区岡本)が全壊した。1995年7月24日この家を鎖瀾閣(さらんかく)と名づけて復元運動を始めた。当時の笹山幸俊神戸市長は岡本公園拡張予定地に建設を提案。以来15年間、活動は実を結び5600万円の建設資金が集まった。しかし建設予定地の隣接住民2軒の頑固な反対のために矢田神戸市長が建設許可を出さず、建設は断念。DVDはその16年の運動の歴史を描いたもの。
4. 絵でわかる「慣用句」(監修)	共	2010年03月	どりむ社	小学生を対象に、日本の「慣用句」を漫画で分かり易く解説したもの。監修(共著者：設楽馨)
5. 絵でわかる「四字熟語」(監修)	共	2010年01月	どりむ社	小学生を対象に、日本の「四字熟語」を漫画で分かり易く解説したもの。監修(共著者：設楽馨)
6. 絵でわかる「ことわざ」(監修)	共	2009年10月	どりむ社	小学生を対象に、日本の「ことわざ」を漫画で分か

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
7. 阪神間の文字	共	1998年01月	和泉書院	り易く解説したもの。 監修（共著者：設楽馨） 清原和義・和田嘉寿男・西崎亨・大森亮尚・豊福健二・徳原茂実・広瀬唯二・山内潤三・野中春水・加賀元子・寺島修一・西島敦哉・馬場憲二・菅宗次・倉西聡・清水彰 分担：たつみ都志 谷崎文学・阪神間に咲く 論文集 阪神間の文学を古代から近代まで通観したもの。
8. かの夢みし鎖瀾閣	単	1995年07月	アトリエ104自費出版15頁	阪神大震災で全壊した谷崎潤一郎の岡本の家の全容を紹介したもの。復元運動のための示威用冊子
9. 谷崎潤一郎・「関西」の衝撃	単	1992年11月	和泉書院	論文集 昭和54年から平成4年までの論文のうち、谷崎と「関西」の相関性を解く鍵になると思われる論考ばかり収集した。総頁数260頁
10. 文人短歌 I	共	1992年01月	朝文社	奥野政元・丹羽章・種田美由紀・佐藤裕子・今西幹一・芋生裕信・中野新治・長野隆・平野芳信 分担：たつみ都志 谷崎潤一郎の短歌 近・現代の小説家、詩人の短歌を紹介、鑑賞し、その文学的源流をさぐったもの。
11. 近代の文芸	共	1990年10月	和泉書院	服部康喜・壇原みすず・村橋春洋・仲秀和・入江春行・川島秀一・上田博・福本彰・山本勝正・長野隆・西尾宣・宮坂寛・北野昭彦・岩田光子・吉村桐・奥野政元・脇谷英勝・佐々木啓一・高橋和幸・玉置邦雄 分担：たつみ都志 谷崎潤一郎「春琴抄」 大学のテキスト用。作家の生涯、作品の評価、作家年譜、作品梗概と作品解説、作品本文抜粋、先行研究史、注釈に分け書かれたもの。
12. 近代文学 I	共	1990年05月	学術図書出版社	山田有策・高橋修・高田知波・壇原みすず・橋口晋作・青木稔称・武田日出夫・橋本威・小林輝治・川端俊英・北野昭彦・川島秀一・山本昌一・宮内俊介・佐々木冬流・永藤武・小久保伍・上出恵子・竹腰幸夫・国松昭・松本武夫・小倉脩三・神田由美子・平野芳信・原武哲・大森澄雄・牛島まほか・細川正義 分担：たつみ都志 谷崎潤一郎 上記「近代文学」の改版。年譜、作品（「細雪」）抜粋と解説、生涯と文学、文学入門、研究入門の項目にわけ、大学のテキスト用にわかりやすく書かれたもの。
13. あゝ幻の倚松庵 ----よみがえれ細雪の家----	単	1988年01月	アトリエ104（自費出版）	谷崎潤一郎旧邸「倚松庵」の詳細な調査。及び「細雪」とのかかわりの論考。総頁数24頁
14. ここですやろ谷崎はん ----潤一郎・関西の足跡	単	1985年03月	広論社	谷崎潤一郎の大正12年～1956. までの関西の足跡を調査したもの。 総頁数212頁
15. 近代文学	共	1982年12月	学術図書出版社	小林一郎・深江浩・川田國芳・藤井淑禎・三瓶達司・中野新治・山田有策・小林輝治・末竹淳一郎・白石喜彦・三島武・立川脇二郎・佐々木浩・西脇良三・福島行一・寺本喜徳・田上貞一郎・竹脇幸夫・石割透・玉村周・水上勲・村上隆彦・赤塚正・平田利晴 分担：辰巳都志 谷崎潤一郎の項 151～160頁 大学のテキスト用。年譜、文体例・文体例解説、生涯と文学、代表作品解説、文学入門・研究入門の項目に分け書かれたもの。総頁数250頁
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 谷崎潤一郎全集 巻16 解題	単	2015年04月	中央公論新社	2015年4月から刊行される「谷崎潤一郎全集」の16巻め。昭和6年～8年の作品を集めたもの。「武州公秘話」「恋愛と色情」をはじめとする、谷崎の昭和初期の珠玉の名作の巻。今までの全集との差は巻末に「初出誌」との比較を解説した解題を載せたことである。
2. 谷崎潤一郎―阪神間転居の歴史	共	2013年07月31日	「阪神間からの贈り物」（神戸新聞総合出版センター）	谷崎潤一郎の阪神間で転居の歴史の実態と、それぞれの住居が、いかに密接に作品世界と関係しているかを論じた。生活美学研究所の紀要20号から転載したもの。
3. 谷崎潤一郎―住居と舞台の「箱」的關係	単	2010年11月	武庫川女子大学生活美学研究所紀要 第20号	2009年12月19日、生活美学研究所 第5回定例研究会における講演をまとめたもの。谷崎潤一郎の阪神間で転居の歴史の実態と、それぞれの住居が、いかに密接に作品世界と関係しているかを論じた。
4. 『痴人の愛』の家の解体と実態調査～「場」の作家・谷崎潤一郎（その2）	単	2010年03月	日本語日本文学論叢	谷崎が阪神間で初めて住んだ「北畑戸政の家」（ナオミの家、と命名した）は、2006年6月、家主の都合で解体されることになった。その部材を建築家と共に調査し部材はしかるべく保存した。この家と『痴人の愛』との関係を説き、主人公ナオミと譲治が住

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. <新資料紹介>吉井勇宛書簡をめぐる八十五通の親愛	共	1998年05月	国文学・解釈と教材の研究	む家のモデルであることを実証した。
6. 『痴人の愛』から『細雪』へ～谷崎潤一郎と「居つかぬ」新しい女	単	1997年10月	阪神間モダニズム（淡交社）、1997年阪神間モダニズム展の図録	京都府立総合資料館に寄贈された吉井勇の資料のうち、谷崎潤一郎の書簡85通を時代別に考察。阪神間時代と疎開時代について、伝記の中で不透明だった部分について考察したもの。
7. 川端康成『みづうみ』・銀平の身体—とらされる姿勢に着眼して—	単	1995年03月	武庫川国文第45号9.5頁	明治末期から昭和15年までの阪神間の文化をさまざまなジャンルから論じた冊子。東京生まれの谷崎潤一郎は阪神間に住むようになり、阪神間のモダニズムの風潮の発達に相乗効果をもたらした。東京で巻き起こっていた「新しい女」旋風に物理的に背をむけることになった谷崎が、その作品中の女性造形上、「新しい女」とは対局の女人を書くことになった。
8. 川端康成『雪国』におけるトポス—日常からの脱却—	単	1995年02月	昭和文学研究第30集11.5頁	主人公・銀平が作品の中でとらされる姿勢の図像的意味を考察した。①隠れ伏す身体②境界を渡れぬ身体③殴られる身体④去勢された身体の四点からのアプローチ。「禽獣」論からの持ち越し問題である、川端文学における不能の性愛を考察した。
9. 新資料をどう読むか——小田原繪末——	単	1993年	国文学・解釈と教材の研究	東京住まいの島村が日常からの脱却をはかって雪国の温泉地Yを訪れるが、駒子との交情の場が点から線、面へと拡大するにつれ、日常化していく。作品冒頭の「国境の長いトンネル」が、日常から非日常に移行する水平の装置であったのに対し、作品終結部の「天の河」は、垂直の装置であって、葉子はその両方における、水先案内人としての役割を担っている。
10. シンポジウム『吉野葛』をめぐる——	単	1993年	国文学・解釈と鑑賞（至文堂）	「中央公論」4月6月号に発表された谷崎と佐藤春夫の未公開書簡を中心に小田原事件の真相を解明したもの。
11. 知られざる古川丁未子	単	1993年	芦屋市谷崎潤一郎記念館ニュース	平成4年11月の日本近代文学会・関西支部秋期大会におけるシンポジウムの発題を収録したもの。『吉野葛』の紀行部分の意味の解説に現象学的な観点を取り入れ語り手「私」と津村を結合双生児としてみなす読みを提起したもの。
12. 「蓼喰ふ蟲」——振り子の揺れ——	単	1992年02月	国文学・解釈と鑑賞 平成4年2月号	谷崎潤一郎の二番目の妻・丁未子について、今まで知られていなかったことを新発見書簡や、知人の証言などによって明らかにしたもの。
13. 資料の周辺／谷崎潤一郎の未公開書簡	単	1992年02月	武庫川国文38号	作品に現れた「過渡」の中で、青春から老境へという視点を提案し女性像を表裏両面から分析したもの。
14. 川端康成「禽獣」の構造	単	1991年05月	昭和文学研究第23集	北原白秋の二番目の妻、江口章子に対する谷崎の未公開書簡を紹介。谷崎伝記中「小田原事件」の背景の彼女の存在の重要性を指摘したもの。
15. 古典と近代 〈実例〉谷崎潤一郎	単	1990年06月	「国文学」6月号	川端康成の作品の中でも難解とされている「禽獣」を、時間の再整理をした上で、語り手の感情に動物に対する冷酷と執着の二重構造があることを指摘。純潔への執着に川端文学における不能の性愛をみる。
16. 「春琴抄」真相不在 ——叙述区分による分析——	単	1990年05月	日本近代文学第43集	「作家をどう論じるか」という特集で、古典と近代というテーマで、谷崎潤一郎の項を担当したもの。谷崎の〈古典受容〉体験の中で、特に昭和初期における文楽体験をとりあげ、それが作品「春琴抄」にどのように投影していったかを論究したもの。佐助の役割、種本考、矛盾の認容の三点を詳述。
17. 照合「春琴抄」——原稿・初出誌との相違にみる作者意図——	単	1989年12月	武庫川国文第34号	「春琴抄」の語りの構造について六者の語り手に分けて、それぞれの「語り」が構築しようとした春琴像と、物語事実を比較対照したもの。作者がはじめから春琴への加害者を特定人物に規定する意図のなかったことを実証し、昨今の「犯人追求」論議に新軌軸を提案したもの。
18. 室生犀星「荻吹く歌」における女性形象 ——谷崎「蘆刈」との対比において——	単	1988年07月	室生犀星研究第5輯	谷崎潤一郎の「春琴抄」について、原稿、初出誌、単行本、現全集（定本）の中にもみる本文の相違を検討し、作者の創作意図をさぐったもの。
19. 「細雪」の構図 ——滅びゆく「特性」への挽歌——	単	1988年03月	武庫川国文第31号	ともに「大和物語」148段を種本としていながらその作品形象の上から、全く異なった様相を呈す、犀星の「荻吹く歌」と谷崎「蘆刈」とを比較論じたもの。
20. 谷崎文芸と文楽	単	1986年07月	「春琴抄読本」（国立文楽劇場調査養成課資料係編）	「細雪」の語り特性、また登場人物、場の対比を描くことによって消え去ろうとする古き日本の特性とそれを浸しつつある新しい時代の対比を描き、前者に対する痛恨の挽歌としての「細雪」を意味づけたもの。
				関西移住後の谷崎潤一郎が、大正15年11月に見た新作文楽「法然上人恵月影」によって文楽に開眼、その観念を作品にとり入れることによって作品転換を

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
21. 実母思慕構造としての「吉野葛」	単	1984年06月	昭和文学研究第9集	なしとげたことを立証したもの。 『継母思慕構造としての「蘆刈」』の続編。「蘆刈」と「吉野葛」の構造上の類似を指摘、実母思慕構造としての「吉野葛」を立証したもの。
22. 「夢の浮橋」とみづ潺湲亭 ---- 関西における谷崎潤一郎 (2) ----	単	1984年03月	武庫川国文第23号	谷崎潤一郎と京都との関わり、谷崎ゾーンの存在、「夢の浮橋」のモデルの家潺湲亭との照合を試みたもの
23. 「細雪」の家及び阪神水害ー関西 における谷崎潤一郎 (1) ー	単	1983年03月	武庫川国文第21号	「細雪」の幸子一貞之助の家が、芦屋という設定であるにもかかわらず、実際は神戸市東灘区の住吉川西岸の家をモデルとしていること、及び中巻の水害の描写と昭和13年の阪神水害の実状との対比を述べたもの。
24. 継母思慕構造としての「蘆刈」	単	1982年06月	昭和文学研究第5集	谷崎潤一郎の母性思慕小説を、継母思慕構造と実母思慕構造に分け、「蘆刈」がその前者にあたることを立証したもの。
25. 谷崎潤一郎の「盲目もの」考	単	1982年03月	武庫川国文第20号	谷崎潤一郎の作品の中で盲人が出てくる、「マンドリンをひく男」「盲目物語」「春琴抄」「開書抄」の意味を考え、「具足としての盲目」が昭和初年の時期になぜくり返し書かれるかをさぐったもの。やがて、それが「春琴抄」の佐助犯人説を裏づけていく可能性を指摘したもの。
26. 近代現代のエロティシズムと性表現ー 谷崎潤一郎あくなき個人趣味の探求	単	1981年04月	国文学「解釈と鑑賞」 4月号	谷崎作品の「性表現」についての考察。露骨と思われる彼の作品には、むしろストレートな表現はなく、あくまで個人的趣味の徹底した探求者であることを論じたもの。
27. 作品化された鴉外像 「甘い蜜の 部屋」森茉莉	単	1980年07月	国文学「解釈と鑑賞」 7月号	森鴉外の長女森茉莉の作品を通し、鴉外像の側面を究明したもの。森茉莉にとっての、鴉外の絶対性を「父親」としての枠を越えた異性に対する情念をそこに見、彼女の結婚生活の破壊の原点をみる。
28. 「細雪」の世界 (二) ----雪子 像について----	単	1980年03月	日本文藝研究第32巻1 号	「細雪」の世界 (一) の続編。三姉妹の一人雪子の女性像を「人形像」として規定、その本質について解明したもの。
29. 「蓼食ふ蟲」考 ----「人形」の 形象について (その二) ----	単	1980年03月	武庫川国文第17号	前者の続編。特に「蓼食う蟲」のお久像に焦点をあわせて、その「人形」像としての特色と本質を具体的に究明したもの。
30. 「人形」の形象について ----昭 和初年の谷崎作品----	単	1979年03月	武庫川国文第14・15号	谷崎潤一郎の女性形象の系譜を、妖婦ー人形ー上臈とした上で、妖婦から究極の上臈に至るまでの、かけ橋としての「人形」の存在意味を述べたもの。昭和一桁の発表作品群の中に明確に見られる「人形」の本質を究明。
31. 「武州公秘話」考	単	1978年03月	武庫川国文第13号	従来、あまり論じられることのなかった「武州公秘話」につき、その芸術的価値・作品史的価値を論じたもの。そこに内包される様々な問題は後期作品群に受け継がれる。
32. 「朧」の一考察 ----綿貫の存在 意味----	単	1976年11月	武庫川国文第10号	女性主人公である「光子」の妖婦要素をひきたてる役割としての「綿貫」像を規定したもの。「嫉妬」のデーモンとしての「綿貫」が、登場人物のそれぞれの潜在意識の中に巢食い、三人の言動を左右していく、その様相はまさに「オセロー」のイヤゴー像に比される。
33. 「細雪」の世界 (一) ----妙子 像について----	単	1976年08月	日本文藝研究第28巻3 号	「細雪」の女主人公の一人妙子について。初期「妖婦」のなれのはての姿とし、その本質について述べたもの。
34. 谷崎「春琴抄」の世界	単	1975年11月	日本文藝研究第27巻4 号	谷崎潤一郎の作品系譜の中に流れる女性思慕のテーマの一分岐点として「春琴抄」を位置づけたもの。初期作品に見られる妖婦像の要因を内包する女性像でありながら、肉体的な実在感を切り捨て極度に精神化、文楽人形のごとき「典型美」としての外形をもって、佐助の意識の中で絶対者として位置づけられる。女性の美が究極までつきつめられ、「神」になる谷崎文芸のみごとな形象化、としたもの。
35. 谷崎作品における妖婦像	単	1975年11月	武庫川国文第8号	谷崎潤一郎の初期作品の中にあられる典型的な女性像を「妖婦像」と規定しその特質について述べたもの。
36. 「刺青」考	単	1975年03月	武庫川国文第7号	谷崎潤一郎の処女作「刺青」について、潤一郎の作品系列の中での重要性を女性形象の立場から確認したもの。
37. 「蒲団」の主題と人間像	単	1974年06月	日本文藝研究第26巻2 号	田山花袋の小説「蒲団」について日本自然主義文学の代表作として位置づけ、特にその主題と主人公時雄の人間像、その煩悶について詳析したもの。修士論文の一部。
38. 「生」の一考察	単	1974年03月	武庫川国文第6号	田山花袋の小説「生」を自然主義文学思潮の中で考察したもの。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
39. 「緑葉集」の一考察	単	1972年03月	武庫川国文第4号	島崎藤村の処女小説集「緑葉集」について、日本自然主義文学の起点として位置づけたもの。卒業論文の一部。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. 谷崎潤一郎～その愛と作品～	単	2014年06月28日	花園大学日本文学会 公開講演会	
2. 谷崎潤一郎の阪神間時代～転居と作品～	単	2013年12月07日	阪神近代文学会	
3. 没後50年まで秒読みの谷崎潤一郎～その魅力～	単	2013年07月03日	兵庫県高等学校国語部会	
4. シンポジウム日本の美学「陰翳礼讃」	共	2012年11月17日	武庫川女子大学 生活美学研究所	
5. シンポジウム「谷崎潤一郎と佐藤春夫」	共	2010年07月24日	芦屋市谷崎潤一郎記念館 残月祭	
2. 学会発表				
1. 谷崎潤一郎―住居と舞台の「箱」的關係―	単	2009年12月		谷崎潤一郎は関東大震災で関西に逃れて来て21年間阪神間に居住し、13回も転居を繰り返した。その歴史を語り、中でも「ナオミの家」と「鎖欄閣」が果たした「箱」（今年度のキーワード）としての役割と、作品との密接な関連性について言及した。また鎖欄閣については、阪神大震災で全壊してから16年間復元運動を行い、もう少しで復元なるところを、付近住民の「住宅環境を守れ」との反対運動に会って、断念したことを述べた。
2. 中国ものにみる大正期の美意識―「秦淮の夜」を中心に	単	1995年07月		谷崎潤一郎は二回中国旅行をしているが、その中でも大正7年に行った時の道程を検証し、中国で何を見、何を感じとってきたかを探った。また、その時の経験をもとに書かれた「秦淮の夜」を考察して女性像と「闇」の問題を考えた。特に「闇」に関しては、後の「陰翳礼讃」との関わりを関連づけた。
3. 川端康成『みづうみ』・銀平の身体―とらされる姿勢に着眼して―	単	1994年07月		主人公・銀平が作品の中でとらされる姿勢の図像的意味を考察した。①隠れ伏す身体②境界を渡れぬ身体③殴られる身体④去勢された身体の四点からのアプローチ。「禽獣」論からの持ち越し問題である、川端文学における不能の性愛を考察した。
4. 川端康成「禽獣」の構造――	単	1990年11月		川端康成の作品の中でも難解とされている「禽獣」を、時間の再整理をした上で、語り手の感情に動物に対する冷酷と執着の二重構造があることを指摘。『昭和文学研究第23集』発表の論文と同じ。
5. 犀星文学の女性像	単	1987年05月		『室生犀星研究第5輯』発表の論文「室生犀星『萩吹く歌』における女性形象―谷崎『蘆刈』との対比において」と同じ。
6. 谷崎「蘆刈」の世界	単	1982年05月		『昭和文学研究第5集』発表の論文「継母思慕構造としての『蘆刈』」と同じ。
7. 谷崎潤一郎の「盲目もの」について	単	1979年12月		同上
8. 谷崎潤一郎の「盲目もの」について	単	1979年09月		『武庫川国文第20号』発表の論文「谷崎潤一郎の『盲目もの』考」と同じ。
9. 昭和初年の谷崎作品 「人形」の形象について	単	1978年12月		『武庫川国文第14・15号』発表の同名論文と同じ。
10. 谷崎文学における妖婦像	単	1976年10月		『武庫川国文第8号』 「谷崎作品における妖婦像」と同じ。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. 朗読劇「細雪」シナリオ	単	2014年9月30日	芦屋市谷崎潤一郎記念館	芦屋市谷崎純一郎記念館の取り組み「朗読シアター」での脚本 谷崎潤一郎原作「細雪」の朗読用シナリオ
2. 朗読劇「春琴抄」シナリオ	単	2014年6月	芦屋市谷崎潤一郎記念館	芦屋市谷崎純一郎記念館の取り組み「朗読シアター」での脚本 谷崎潤一郎原作「春琴抄」の朗読用シナリオ
3. 朗読劇「吉野葛」シナリオ	単	2013年6月	芦屋市谷崎潤一郎記念館	芦屋市谷崎純一郎記念館の取り組み「朗読シアター」での脚本 谷崎潤一郎原作「吉野葛」の朗読用シナリオ
4. 朗読劇「猫と庄造と二人のおんな」シナリオ	単	2013年11月	芦屋市谷崎潤一郎記念館	芦屋市谷崎純一郎記念館の取り組み「朗読シアター」での脚本 谷崎潤一郎原作「猫と庄造と二人の女」の朗読用シナリオ
5. 育夫ノススメ	単	2012年11月2日	どりむ社	仕事と家庭をどう両立させるかを、経験をもとに書

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
6. 朗読劇「蘆刈」シナリオ	単	7日 2012年	芦屋市谷崎潤一郎記念館	いたエッセイ。女性研究者支援センターの仕事を意識した書いた、ノウハウ本。 芦屋市谷崎純一郎記念館の取り組み「朗読シアター」でも脚本 谷崎純一郎原作「蘆刈」の朗読用シナリオ
7. 源氏物語から「横笛」（上方舞） ・・・脚本担当		2011年03月		源氏物語の女三宮と柏木の恋に、心を痛め嫉妬する、柏木遺愛の横笛の悲恋を軸にした、上方舞の脚本。横笛の精である主人公が、悲恋からやがて柏木の遺児・薫への母性目覚めていくストーリー。舞うのは上方舞の立花典江と能楽師茂山重司。
8. 源氏物語から「横笛」（上方舞） ・・・脚本担当		2009年09月		源氏物語の柏木と女三宮の恋を背景に、柏木遺愛の横笛が、精となって柏木での恋慕を物狂おしく舞う。柏木に忘れ去られた横笛は、柏木の死後、闇の中に葬り去られるが、薫の手に握られたときに、それが柏木の子と察知して蘇生していくという脚本である
9. 女ダカラ出来ること、女シカ出来ないこと	単	2007年10月31日	株式会社 LGC	女性としての生きざまを、33の章立てで説いたもの。仕事をしながら、妻・母としての役割を果たし、姑の介護もまっとうしてきた歴史の中から編み出した33の要点をまとめた。
10. ほろ酔い旅	単	2003年11月25日	新風舎	大阪新聞に平成12年～14年、隔週金曜日に連載した旅のエッセイをまとめたもの。
11. ママにはkissがよく似合う	単	1996年03月20日	新潮社	1994年神戸文学賞を受賞したものに、補足して出版したもの。何げない家族に起こるアクシデントと、それを乗り越える家族の絆がテーマ。
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
	昭和文学会 日本比較文学会 日本プレゼン・スピーチ能力協会 大阪代表 ラジオ大阪番組審議委員会 兵庫県「ともしび」賞 選考委員 池田市社会教育委員会 議長